

## 1 学校教育目標

- 進んで学ぶ生徒
- 心豊かな生徒
- たくましい生徒

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な学習内容を重視し、確かな学力を身に付けさせる学校</li> <li>○よりよい社会を創造する主権者としての知識・資質・豊かな心を身につけられる学校</li> <li>○学校情報を適宜発信し、保護者・地域の人々と協働しながら教育を推進していく学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学ぶ意欲と向上心を持ち、生涯にわたって逆境に負けず、前向きに生きようとする生徒</li> <li>○思いやりの心、命を大切に作る心、規範意識、連帯感、自己肯定感、平和を愛する心など豊かな心をもった生徒</li> <li>○社会状況の変化に対応し、地域・社会に貢献できる力をもった生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人一人の個性や多様性を把握し、生徒の可能性を引き出し、豊かな心を育んでいく教師</li> <li>○教育公務員として使命と責任を自覚して、情熱を持って職務に努める教師</li> <li>○「地域にある学校」を意識し、地域や保護者と連携しながら生徒の社会的自立に必要な力を育んでいく教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 〈学校〉

現状：教師・生徒の信頼関係を築きながら、きめ細かく丁寧な指導を行っており、落ち着いた環境である。

学校行事や学年行事、部活動、ボランティア活動には、生徒が積極的に取り組んでいる。

成果：「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に取り組んでいる。

学力向上に向けて ICT 機器の活用や「足立スタンダード」に基づいた授業実践、補充教室や家庭学習についての取り組みを工夫している。

規範意識や人権尊重、母校を大切にする意識はとても高く、生活指導面では落ち着いた環境である。

発達障害生徒、不登校生徒への対応策を外部機関と連携して実践することができている。

課題：①基礎学力の確実な定着と向上

②「思考力・判断力・表現力」を育成する授業実践

③発達障害生徒、不登校生徒への対応

### 〈生徒〉

現状：純朴で明るく、学校行事や美化活動やボランティア活動、部活動によく取り組んでいる。全体として、授業に臨む姿勢もよい。

成果：「伊興中でよかった」という生徒が86%。全体として落ち着いた授業が展開でき、生徒間のトラブルも減少してきた。

課題：①学習の必要性を認識して、基礎学力の定着・向上に努める。家庭学習の習慣化。

②生徒自らが考え、伝える力の育成。

③粘り強く取り組み、困難を乗り越える力の育成。

〈教師〉

現状：若手教師が半数以上で、活気がある。生徒・保護者に寄り添って指導している姿が多く見られる。

成果：新学習指導要領「指導と評価の一体化」についての区中研教科研修や小中連携研修、成果発表授業、校内研究授業、ICT 活用の取り組み等により授業改善の意識が高まっている。

- 課題：①基礎学力の定着と向上 下位層の底上げ  
 ②「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業力向上と改善  
 ③学年セクトではない、学校全体としての組織的対応

〈保護者・地域〉

現状：保護者（PTA・おやじの会）や地域の方々は、創立以来本校に愛着を感じていただき、協力・支援体制が強い。生徒に活躍する場を提供していただき、開かれた学校づくり協議会委員の方には、全面的に協力していただいている。

成果：PTA・おやじの会主催による「いこう彰風まつり」が10月に実施できた。また、開かれた学校づくり協議会も定期的を開催し、12月には3年生面接練習をサポートしていただいた。令和5年度新制服について、制服検討委員会を立ち上げ検討することができた。

- 課題：①学校、PTA、開かれた学校づくり協議会との連携を引き続き図り、地域に根ざした学校をつくる。  
 ②保護者の皆様に、学校公開や学校の様子を随時発信し、ご理解とご協力を頂けるような教育活動を展開していく。

**4 重点的な取組事項**

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成と社会的自立心の確立	○	○	○	○	○
3	教師の指導力向上と信頼される学校作り	○	○	○	○	○
4						

**5 令和5年度の重点目標**

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン		
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
生徒の学習意欲を高めるとともに、基礎・基本を確実に身に付けさせ、学力向上を図る	年度末到達度確認テスト正答率 60% 令和4年度区調査通過率 60%	正答率 63.3% 通過率 64.6%	・区学力調査において目標値の達成基準は上回ったが、上位層と下位層の差が大きい。数学の学力が区平均を下回っている。引き続き基礎学力の定着と向上を図る。 ・学習の課題と今後の対策については6(1)を参照	○

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	放課後補充 学習	全学年 評定が2 から下の 生徒 5教科	月・火・ 木・金曜 日 放 課 後 2 5 分 1 週 間 を 目 安 に 教 科 毎 に 実 施	【指導体制】教科担任、学 年所属教員 【取組みのねらい・目 的】・各教科の課題につい て未提出や内容が不十分 な生徒に対して指導する。 ・週1回全生徒対象にその 週の教科のAIドリルを実 施する。 ・各種コンテスト(英数国) を行い、基準をクリアでき ない生徒に対してAIドリ ルを活用した補充を行い、 確認テストを行う。 【使用教材】AIドリル プリント教材	5教科の課題 提出 最終日のテス ト(各種コン テスト)  活用数の点検 (AIドリル)	定期考査、単元 テスト、小テス トで基礎・基本 問題の習得  テスト結果よ り、80%が目 標値を通過す る。	・放課後補充教室 月曜日AIドリル活用 率 84.6% 火木金補充実施率 1月まで58回 70% ・AIドリル活用月間 11月一人平均508問 ・各種コンテスト合 格率 漢字 84.6% スペリング 63% 計算 71.6% 共通問題計算 61.5%	・放課後補充教室 宿題提出率を考 えるとAIドリル の活用が効果 的である。来 年度は月火木 金AIドリル活 用の補充教室 を実施。(5 教科) ・各種コンテ スト80%以上 の合格率に達 するまで放課 後補充教室を 実施。来年度 も1～3年共 通問題計算コ ンテストを実 施する。	○
継続	朝読書	全学年 朝読書  集中力・ 読解力の 訓練(1 ～3年)	毎日 登 校 後 8 時 2 5 分 ～ 3 5 分 ま だ 1 0 分 間	【指導体制】学級担任 【取組みのねらい・目 的】・全学年10分間読書 を行い、集中力と読む力 をつける。 ・全学年週1回新聞記事 「天声人語」に取り組む。 【使用教材】天声人語ノ ート、本	毎日の点検	朝読書により、 落ち着いて読 む習慣と授業 への集中力を 高める。 天声人語ノー ト及び各教科 定期考査等 での読解力を 分析し、全教 科で読解力の 向上を目指す。 (全学年)	・朝読書 朝読書で「集中 力と読解力が 付いた」と答 えた教員が88. 5% 「朝読書で集中 して本が読めた と答えた生徒 79.1%「4月 より読書量が 増えた」61.9% 10～12月図書 館貸出冊数 月 320冊 ・天声人語」ノ ート週1回の 実施率 45.5%	・朝読書 落ち着いて読 む習慣と授業 への集中力を 高めることが できた。 ・天声人語ノ ート週1回の 実施が厳しい ため、来年度 は総合的な学 習で計画的に 実施する。ワ ークシートの 改善も必要 である。	○

継続	家庭学習	全生徒 全教科	毎日 (土、日 も含む)	<p>【指導体制】学年所属職員</p> <p>【取り組みのねらい・目的】4月を家庭学習習慣強化月間と捉え、5教科よりAIドリルを活用した家庭学習の方法を指導する。5教科の課題を充てる。</p> <p>【使用教材】教科書・プリント・AIドリル</p>	AIドリル活用状況を学年体制で確認する。教科担任が課題提出の点検をする。	未提出者に対しては、教科担任を中心に個別指導を行う。	教員アンケートより「課題提出率 80～100%」は60%。「生徒の家庭学習量が増えた」は30%。未提出者については放課後補充教室で指導した。	来年度、家庭学習はAIドリルの活用をメインとする。AIドリル活用未達成者は5教科補充と合わせて、放課後補充教室で指導する。	△
継続	ICT機器の活用	全学年・ 全教科	年間を 通して	<p>【指導体制】教務部で企画運営</p> <p>【取り組みのねらい・目的】年1回の研究授業時にICT機器を活用した授業を公開する。生徒一人一台のタブレット活用の校内研修会を実施する。</p>	実施回数	全教員が最低1回以上ICT機器を活用した授業を公開し、研究授業を実施する。	「授業で80%以上ICT機器を活用した」と答えた教員76.9%「生徒用タブレットを活用している」と答えた生徒82.5%一人1回の研究授業では、ICT機器を活用できていた。大仙市派遣教員の還元授業、校内研修会が実施できた。	小中連携授業、年次研究授業で全教員の授業を観察。大仙市派遣教員の校内研修会により、「主体的な学び」をテーマに来年度もICT推進委員会と連携して、ICT機器を活用した研究授業を推進する。	○

<b>重点的な取組事項－2</b>		豊かな心の育成と社会的自立心の確立					
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>		<b>実施結果</b>		<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
生徒自らよりよい学校づくりに参画し、いじめのない「笑顔あふれる学校」「学校に登校するのが楽しいと思える学校」をつくる		アンケートで「伊興中の生徒でよかったと思う」と90%以上の生徒が回答する。		「伊興中の生徒でよかったと思う」と答えた生徒は88.4%であった。		生徒主体に取り組ませることで自己肯定感を高めていく。	○
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>							
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>		<b>実施結果</b>		<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>

人権への配慮と豊かな心の育成	「相手の気持ちを受け止め、自分の考えを相手に伝えることができている」と、生徒の80%以上が回答する。	道徳の授業をはじめ「心の教育」「人権について考える教育」など全教育活動で育む。キャリア教育の育てたい力、「気持ちをキャッチ、考えを伝達」をキャッチフレーズに推進する。	小中連携人権教育講演会1回、生徒向けLGBTQ講演会1回、生命の安全教育1回実施。「他の人を尊重し、いじめのない学校生活を送っている」と答えた生徒93%。「気持ちをキャッチ、考えを伝達について実行している」は76%。	道徳、学級活動、生徒会活動、校長講話など、全教育活動で取り組んだ。生命の安全教育については、1年次より年間計画に配置する。	○
社会的自立心の確立 凡事徹底	「挨拶する」「生徒会や委員会・係活動、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる」と生徒の90%以上が回答。	日常的なマナー・ルールを守る指導を徹底する。生徒会を中心に生徒自らが考え、行動できる生徒を育成する。	「挨拶は進んでしている」87.7%。「校則を守る」95.5%。「生徒会や委員会・係活動、ボランティア活動に積極的に取り組んだ」86.6%と生徒が答えた。	日常的に凡事徹底ができています。生徒会中心に主体的な取り組みが工夫されている。	◎

重点的な取組事項－3		教師の指導力向上と信頼される学校作り				
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
	教師の指導力向上と信頼される学校作り	アンケートで、90%以上の保護者「子どもを伊興中に入れてよかったと思う」と答える。	アンケートで87%の保護者が「子どもを伊興中に入れてよかったと思う」と答えた。	90%以上になるよう、引き続き信頼される学校づくりを目指す。	△	
B 目標実現に向けた取組み						
	項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
	教師の学習指導力の向上	「教え方や学び方に工夫をしてくれている」「分からないところを丁寧に教えてくれる」と80%以上の生徒が答える。	全教員が年5回以上の授業研究に参加する。校内研修日を設定し、「主体的・対話的で深い学び」や「ICT活用」をテーマに研修し、授業力向上を目指す。	「授業の進め方を生徒の理解度に合わせて工夫している」87.1%。「分からないところを丁寧に教えてくれる」90.2%。「ICT・生徒用タブレットを効率よく活用している」82.5%と生徒が答えた。	「大仙市の学びを生かした授業改善」をテーマに校内研修会を実施。発問の仕方・振り返りを見直し、授業改善につなげた。	○
	教職員集団の育成と組織力の向上	教育活動や対外的な対応に、保護者へのアンケートで80%以上が満足していると回答する。	校務分掌の組織を見直し、学校全体で共通理解を図り、運営する。管理職・主幹教諭・主任教諭による若手教師のOJTを計画的に実施する。	「学校は組織的に教育活動にあっている」72.3%。「教育方針や教育活動に満足している」75%と保護者が答えた。主幹・主任教諭による若手教員のOJTは学年・教科で実施できた。	校務分掌組織を特別委員会と連携させ、適材・適所な配置になるよう改善できた。さらに見直しを図る。	○

<p>保護者、開かれた学校づくり協議会、地域と協働した信頼される学校作りとの協働</p>	<p>「学校は保護者や地域と一体になって教育活動を行っている」と保護者の80%が回答する。</p>	<p>開かれた学校づくり協議会・PTAと定期的に会議を持ち、学校と保護者・地域との連携を図る。各種たよりを定期的に発行する。保護者会、教育相談、協議会を計画的に実施する。</p>	<p>「保護者や地域と一体となって教育活動を行っている」73.6%。「学校は教育方針や教育活動について分かりやすく伝えている」88.7%と保護者が答えた。</p>	<p>開かれた学校づくり協議会4回開催。各種たよりの発行、H&amp;S、学校ホームページの配信。PTA・おやじの会の協力により、彰風まつりが実施できた。</p>	<p>○</p>
--	---	---	---	---	----------

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 学力向上アクションプランについて

【課題】どの学年も上位層と下位層の差が大きく、学年が上がるにつれ、特に数英の通過率、正答率が下がる。基礎・基本の定着に課題がある。

「生徒の主体的に学びに向かう姿勢」「粘り強く取り組む姿勢」が弱い。

【対策】ICT機器を活用した授業を取り入れ、生徒が主体的に取り組む授業を展開する。

足立スタンダードの中で、めあてを自分事として設定する、自力解決→ペア、グループ学習、発表、振り返りの「課題解決型学習」のスタイルを全教科で取組む。発問の仕方を工夫し、小さな自己決定場面を積み重ねていくことで、主体的な学びを目指す。

「主体的に取り組む学習態度」について校内研修を継続し、「指導と評価」の一体化を目指す。

各教科単元・小テスト、全学年各種コンテスト（国数英）を継続し、基礎・基本の定着を図る。

補充教室や家庭学習について、AIドリルを活用する。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

コロナ後の学校生活について、試行錯誤しながら教育課程を見直すことができた1年でした。運動会、合唱コンクール、作品展、いこう彰風まつり、修学旅行、魚沼自然教室、鋸南宿泊学習、校外学習など学校・学年行事がコロナ前の形で実施できたことはとても良かったと思います。生徒たちも生徒会を中心に委員会活動やボランティア活動など主体的に自分たちのアイディアを出しながら取り組んでいます。また、部活動も上位の大会出場を目標に、日々鍛錬しています。来年度は今年の反省を生かしながら、行事の内容や日程についても検討し、より充実したものにしていきたいと考えています。保護者会や三者面談、学校公開、各種たより、H&S、ホームページなどを利用して、学校の様子をお伝えしてきました。今後とも保護者や地域の皆様に信頼される学校づくりを目指して、教職員一同研鑽を積んで参りたいと思います。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

毎朝、週番生徒とともに校門前に立って、挨拶運動を奨励してきました。笑顔で挨拶できることはとても大切なことです。今後もこの活動は継続していきたいと思います。また、毎月の校長講話では社会情勢を鑑みて、広い視野で物事を考える力がつくような話題を取り上げてきました。生徒たちの「聴く姿勢」はとてもよく、授業態度にも表れています。開かれた学校づくり協議会による3年生の面接練習や地域の方を講師として「原爆被爆者の話を聞く会」「LGBTQ講演会」「生命の安全教育」などが実施できたことは大変心強く、感謝申し上げます。今日的課題を取り上げながら、時代の変化に柔軟かつ発想豊かに対応し、多様性を認め合える学校を目指していきます。